

# U.S. Indicators

発表日:2020年10月9日(金)

## 米国10月初も労働市場の改善ペース鈍化(失業保険)

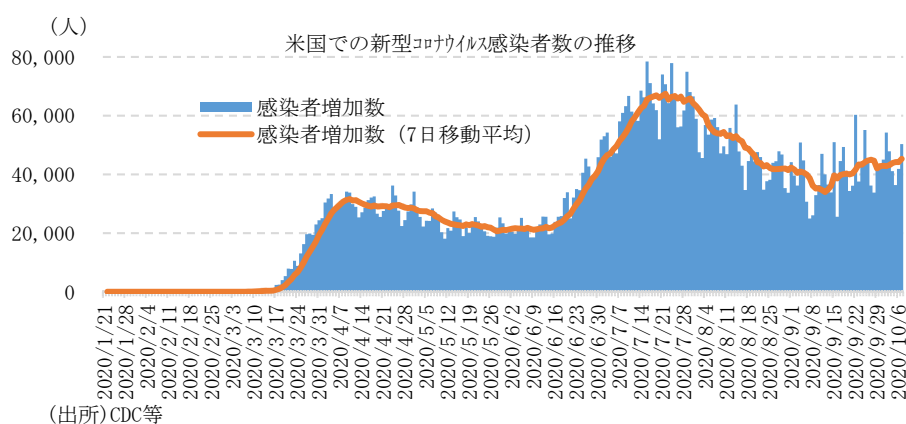
～景気回復に伴って労働市場の回復が持続しているが新型コロナウイルスが足枷に～

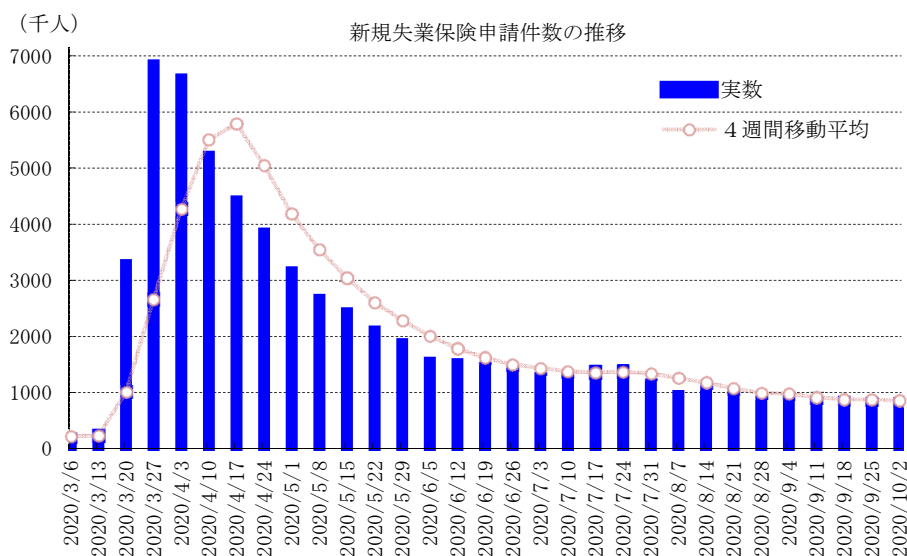
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

10月3日までの1週間の米新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、84.0万件(前週84.9万件)と前週比0.9万件減少したが、市場予想中央値(ブルームバーグ集計)の82.0万件を上回った。また、新型コロナウイルスの感染拡大という特殊な状況によって週次統計に季節調整をかけることはより困難なため季節調整前の数値をみると、80万4,307件と前週より5,312件増加した。一方、一時的な要因の影響を小さくする4週移動平均(季節調整済み)では85万7,000件と前週比1万3,250件減少しているように、景気回復に伴って労働市場の改善が続いているが、失業者数は高い水準にとどまっている。なお、全米で最も失業保険申請件数の多いカリフォルニア州がシステム更新と未処理分の申請に対応するために新規の申請受付を一時的に停止したことで、申請件数、継続受給者数ともに前週と同じ数字を報告しており、統計全体に歪みが生じている可能性があるほか、受付再開後に申請件数が急増するリスクがある。

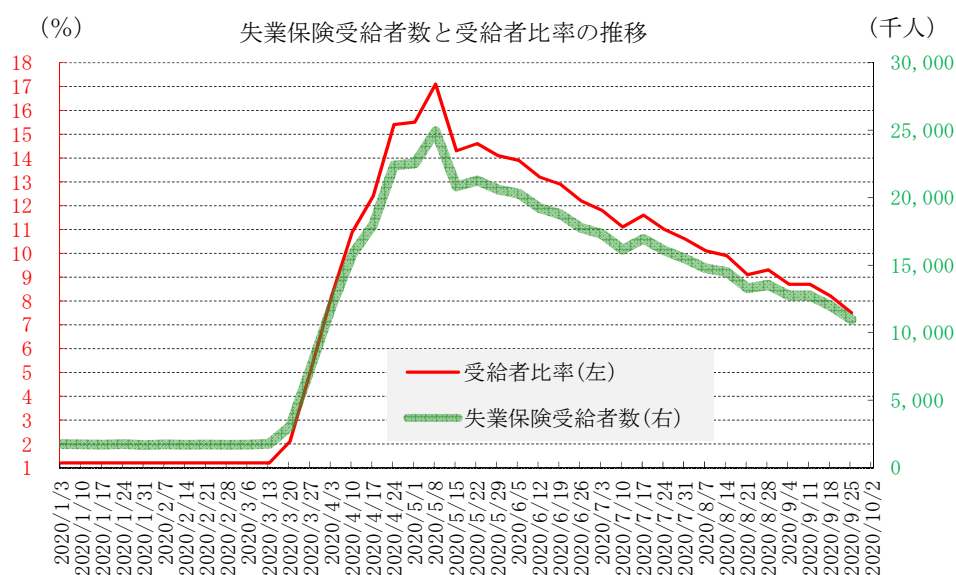
9月の雇用統計調査週(9月6日～12日)後の労働市場の状況では、10月3日までの1週間の新規失業保険申請件数は9月の雇用統計調査週の86.6万件よりも小幅減少していることから、9月の雇用統計調査以降も労働市場は改善を続けている。また、9月26日までの1週間の失業保険継続受給者数(新規失業保険申請件数より公表が1週間遅い)は1,097.6万件(前週比▲100.3万件)と9月の雇用統計調査週より▲177.1万件減少した。さらに、同週の失業保険受給者比率は7.5%(前週8.2%)と9月の雇用統計調査週の8.7%から大幅に低下しており、失業率が市場予想以上の改善を続けることを示唆している。

米国では9月下旬にかけて総失業者が減少しており米労働市場の改善が続いている。ただし、新型コロナウイルスの感染者数・死者数の拡大ペースが高い伸びを続けているなか、地域ごとに程度の差はあるがソーシャルディスタンスに配慮した規制の継続や強化が行われている。このため、失業保険継続受給者数、失業保険受給者比率ともにコロナ危機前と比較して高い水準にとどまっていることから、労働市場がコロナ危機前の水準を回復するにはかなりの時間が必要となる。





(出所) 米労働省



(出所) 米労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。